

# かかりつけ医として知っておきたい 脳卒中の後遺症治療 WEB講演会

日時：2017年 10月24日（火） 12:30~13:00

## 脳卒中地域連携のツールとしての ボツリヌス+リハビリテーション併用療法



演者



鈴江 淳彦 先生

日本赤十字社 高知赤十字病院  
脳神経外科 副部長

### 演者からのメッセージ

我が国では高齢化に伴い、医療者が患者の生活能力にも配慮することが求められる時代となりました。

かかりつけ医として脳卒中後の治療の取り組みとしては、脳卒中の再発予防のみならず、生活障害に対しても一定の理解と対応が必要です。

一般に脳卒中の後遺症として、麻痺などの運動障害や認知・高次脳機能障害がありますが、ほかに手足のつっぱり（痙縮）があり、近年治療対象と考えられるようになりました。

痙縮は生活障害の一因となる場合があり、治療により生活障害が改善する例もみられています。本講演ではかかりつけ医、一般医療者の方々に対して、痙縮の問題点や治療の実際について、また地域の先生方と連携するうえで大切だと思うことなどを分かりやすくお伝えする予定です。



主催：グラクソ・スミスクライン株式会社